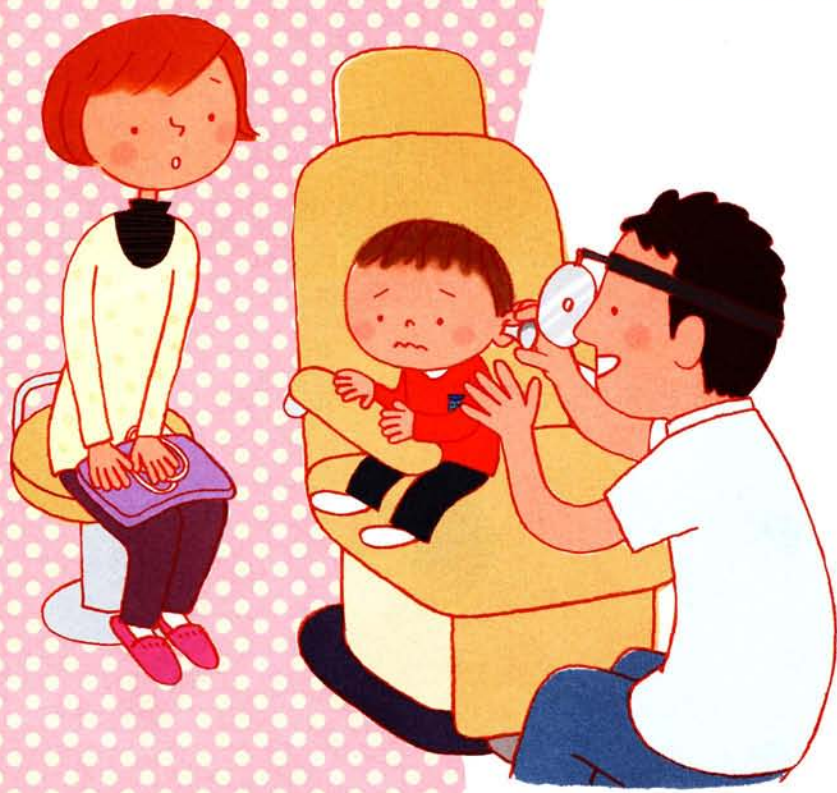




子どもの 中耳炎に要注意

中耳炎は、風邪によるのどや鼻の炎症が、耳にも広がって炎症を引き起こす病気。子どもが風邪をひいたあとに耳を痛がっているときは、中耳炎を疑いましょう。

監修／笠井耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療室
笠井 創先生



風邪をひいたあとに耳を痛がることがあれば、早めに耳鼻咽喉科を受診すること。中耳炎は、完全に治るまで治療を続けましょう。

風邪をひいたあとに 耳を痛がるときは注意

子どもの病気で、意外に多いのが耳のトラブル。とくに、乳幼児は鼻と耳をつなぐ「耳管」が太いため、感染が広がりやすく、中耳炎になりがちです。
中耳炎というと、ほとんどが「急性中耳炎」を指します。これ

は、風邪によるのどや鼻の炎症が、耳にも広がって中耳に炎症を引き起こす病気。風邪をひいたあとに、耳を痛がっている場合は要注意です。
また、耳だれや耳から血が出ているときも、すぐに耳鼻咽喉科へ連れていきましよう。早めにきちんと治療をすれば2〜3日ですら症状は治まりますが、中耳に分泌物が残っている

こともあります。完全に治りきるまでは、しっかり治療を続けることが大切です。
この急性中耳炎をきちんと治療しておかないと、「滲出性中耳炎」に移行してしまうケースがあります。滲出性中耳炎がこわいのは、聴力の低下をまねく点。耳の聞こえが悪いといって受診する子の多くには、この滲出性中耳炎がみられます。

聞こえがひどく悪かったり、抗生剤を飲み続けてもなかなか治らないような場合は、鼓膜を切開して分泌液を取り出すなどの処置が必要になることもあります。
子どもが風邪をひいたあとには、中耳炎のおそれが強まるということを、ぜひ覚えておいてください。

先生からのアドバイス

- ・風邪のあとは「急性中耳炎」になりやすい。
- ・乳幼児は鼻と耳をつなぐ「耳管」が太いため、感染が広がりやすい。
- ・耳だれや耳から血が出ているときはすぐ耳鼻咽喉科へ。
- ・早めに治療を始め、確実に治るまで薬を飲み続ける。
- ・「滲出性中耳炎」は耳の聞こえが悪くなる病気。
- ・抗生剤を服用しても治らないときは、鼓膜を切開することも。
- ・乳幼児が風邪をひいたあとには、中耳炎の発症に気をつけること。

